



システムメッセージロギングの設定

この章は、次の内容で構成されています。

- システムメッセージロギングの概要, on page 1
- システムメッセージロギングの注意事項および制約事項 (2 ページ)
- システムメッセージロギングのデフォルト設定, on page 2
- システムメッセージロギングの設定 (3 ページ)
- DOM ロギングの構成 (16 ページ)
- システムメッセージロギングの設定確認, on page 17

システムメッセージロギングの概要

システムメッセージロギングを使用して宛先を制御し、システムプロセスが生成するメッセージの重大度をフィルタリングできます。端末セッション、ログファイル、およびリモートシステム上の Syslog サーバへのロギングを設定できます。

システムメッセージロギングは RFC 3164 に準拠しています。システムメッセージのフォーマットおよびデバイスが生成するメッセージの詳細については、『Cisco NX-OS System Messages Reference』を参照してください。

デフォルトでは、Cisco Nexus デバイスはメッセージをターミナルセッションへ出力します。

デフォルトでは、スイッチはシステムメッセージをログファイルに記録します。

次の表に、システムメッセージで使用されている重大度を示します。重大度を設定する場合、システムはそのレベル以下のメッセージを出力します。

Table 1: システムメッセージの重大度

レベル	説明
0 : 緊急	システムが使用不可
1 : アラート	即時処理が必要
2 : クリティカル	クリティカル状態

レベル	説明
3 : エラー	エラー状態
4 : 警告	警告状態
5 : 通知	正常だが注意を要する状態
6 : 情報	単なる情報メッセージ
7 : デバッグ	デバッグ実行時にのみ表示

重大度 0、1、または 2 の最新のメッセージを 100 個まで不揮発性 RAM (NVRAM) ログに記録します。NVRAM へのロギングは設定できません。

メッセージを生成したファシリティと重大度に基づいて記録するシステムメッセージを設定できます。

Syslogサーバ

syslog サーバーは、syslog プロトコルに基づいてシステムメッセージを記録するよう設定されたリモートシステムで稼働します。最大 8 台の syslog サーバーにログを送信するように Cisco Nexus シリーズ スイッチを設定できます。

ファブリック内のすべてのスイッチで syslog サーバーの同じ設定をサポートするために、Cisco Fabric Services (CFS) を使用して syslog サーバー設定を配布できます。



Note スイッチを最初に初期化する場合、ネットワークが初期化されてからメッセージが Syslog サーバーに送信されます。

システムメッセージロギングの注意事項および制約事項

システムメッセージは、デフォルトでコンソールおよびログファイルに記録されます。

システムメッセージロギングのデフォルト設定

次の表に、システムメッセージロギングパラメータのデフォルト設定を示します。

Table 2: デフォルトのシステムメッセージロギングパラメータ

パラメータ	デフォルト
コンソールロギング	重大度 2 でイネーブル

パラメータ	デフォルト
モニタ ロギング	重大度 2 でイネーブル
ログ ファイル ロギング	重大度 5 のメッセージロギングがイネーブル
モジュール ロギング	重大度 5 でイネーブル
ファシリティ ロギング	イネーブル
タイムスタンプ単位	秒
Syslog サーバ ロギング	ディセーブル
Syslog サーバ設定の配布	ディセーブル

システムメッセージロギングの設定

ターミナルセッションへのシステムメッセージロギングの設定

コンソール、Telnet、およびセキュアシェルセッションに対するシビラティ（重大度）によって、メッセージを記録するようスイッチを設定できます。

デフォルトでは、ターミナルセッションでロギングはイネーブルです。

SUMMARY STEPS

1. switch# **terminal monitor**
2. switch# **configure terminal**
3. switch(config)# **logging console** [*severity-level*]
4. (Optional) switch(config)# **no logging console** [*severity-level*]
5. switch(config)# **logging monitor** [*severity-level*]
6. (Optional) switch(config)# **no logging monitor** [*severity-level*]
7. (Optional) switch# **show logging console**
8. (Optional) switch# **show logging monitor**
9. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# terminal monitor	コンソールから現在の端末セッションに syslog メッセージをコピーします。
ステップ 2	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	Command or Action	Purpose
ステップ 3	switch(config)# logging console [<i>severity-level</i>]	<p>指定されたシビラティ（重大度）（またはそれ以上）に基づくコンソールセッションへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうがシビラティ（重大度）が高いことを示します）。重大度は 0～7 の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。</p>
ステップ 4	(Optional) switch(config)# no logging console [<i>severity-level</i>]	コンソールへのロギングメッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	switch(config)# logging monitor [<i>severity-level</i>]	<p>指定されたシビラティ（重大度）（またはそれ以上）に基づくモニターへのメッセージの記録をイネーブルにします（数字が小さいほうがシビラティ（重大度）が高いことを示します）。重大度は 0～7 の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 2 が使用されます。</p>

	Command or Action	Purpose
		設定は Telnet および SSH セッションに適用されます。
ステップ 6	(Optional) switch(config)# no logging monitor [severity-level]	Telnet および SSH セッションへのメッセージロギングをディセーブルにします。
ステップ 7	(Optional) switch# show logging console	コンソール ロギング設定を表示します。
ステップ 8	(Optional) switch# show logging monitor	モニタ ロギング設定を表示します。
ステップ 9	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、コンソールのロギングレベルを 3 に設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging console 3
```

次に、コンソールのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging console
Logging console:                enabled (Severity: error)
```

次に、コンソールのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging console
```

次に、ターミナルセッションのロギングレベルを 4 に設定する例を示します。

```
switch# terminal monitor
switch# configure terminal
switch(config)# logging monitor 4
```

次に、ターミナルセッションのロギングの設定を表示する例を示します。

```
switch# show logging monitor
Logging monitor:                enabled (Severity: warning)
```

次に、ターミナルセッションのロギングをディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no logging monitor
```

ファイルへのシステムメッセージロギングの設定

システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定できます。デフォルトでは、システムメッセージはファイル `log:messages` に記録されます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging logfile** *logfile-name severity-level* [**size bytes**]
3. (Optional) switch(config)# **no logging logfile** [*logfile-name severity-level* [**size bytes**]]
4. (Optional) switch# **show logging info**
5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging logfile <i>logfile-name severity-level</i> [size bytes]	<p>システムメッセージを保存するのに使用するログファイルの名前と、記録する最小シビラティ（重大度）を設定します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。</p> <p>重大度は0～7の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ <p>ファイルサイズは4096～10485760バイトです。</p>
ステップ 3	(Optional) switch(config)# no logging logfile [<i>logfile-name severity-level</i> [size bytes]]	ログファイルへのロギングをディセーブルにします。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。

	Command or Action	Purpose
ステップ 4	(Optional) switch# show logging info	ロギング設定を表示します。任意で最大ファイルサイズを指定できます。デフォルトの重大度は5です。ファイルサイズは4194304です。
ステップ 5	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、システムメッセージをファイルに記録するようスイッチを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging logfile my_log 6 size 4194304
```

次の例は、ロギング設定の表示方法を示しています（簡潔にするため、一部の出力が削除されています）。

```
switch# show logging info
Logging console:          enabled (Severity: debugging)
Logging monitor:         enabled (Severity: debugging)
Logging timestamp:       Seconds
Logging server:          disabled
Logging logfile:         enabled
                          Name - my_log: Severity - informational Size - 4194304
Facility      Default Severity      Current Session Severity
-----
aaa            3                               3
afm            3                               3
altos         3                               3
auth           0                               0
authpriv      3                               3
bootvar       5                               5
callhome      2                               2
capability    2                               2
cdp           2                               2
cert_enroll   2                               2
...
```

モジュールおよびファシリティメッセージのロギングの設定

モジュールおよびファシリティに基づいて記録するメッセージの重大度およびタイムスタンプの単位を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging module** [severity-level]
3. switch(config)# **logging level** facility severity-level
4. (Optional) switch(config)# **no logging module** [severity-level]

5. (Optional) switch(config)# **no logging level** [*facility severity-level*]
6. (Optional) switch# **show logging module**
7. (Optional) switch# **show logging level** [*facility*]
8. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging module [<i>severity-level</i>]	<p>指定された重大度またはそれ以上の重大度であるモジュール ログ メッセージをイネーブルにします。重大度は 0～7 の範囲です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ <p>重大度が指定されていない場合、デフォルトの 5 が使用されます。</p>
ステップ 3	switch(config)# logging level <i>facility severity-level</i>	<p>指定された重大度またはそれ以上の重大度である指定のファシリティからのロギング メッセージをイネーブルにします。重大度は 0～7 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0：緊急 • 1：アラート • 2：クリティカル • 3：エラー • 4：警告 • 5：通知 • 6：情報 • 7：デバッグ

	Command or Action	Purpose
		<p>同じ重大度をすべてのファシリティに適用するには、allファシリティを使用します。デフォルト値については、show logging level コマンドを参照してください。</p> <p>Note コンポーネントの現行セッションのシビラティ（重大度）がデフォルトのシビラティ（重大度）と同じ場合には、実行構成でそのコンポーネントのログレベルが表示されないことが予想されます。</p>
ステップ 4	(Optional) switch(config)# no logging module [severity-level]	モジュール ログ メッセージをディセーブルにします。
ステップ 5	(Optional) switch(config)# no logging level [facility severity-level]	指定されたファシリティのロギングシビラティ（重大度）をデフォルトレベルにリセットします。ファシリティおよびシビラティ（重大度）を指定しないと、スイッチはすべてのファシリティをデフォルトレベルにリセットします。
ステップ 6	(Optional) switch# show logging module	モジュール ロギング設定を表示します。
ステップ 7	(Optional) switch# show logging level [facility]	ファシリティごとに、ロギングレベル設定およびシステムのデフォルトレベルを表示します。ファシリティを指定しないと、スイッチはすべてのファシリティのレベルを表示します。
ステップ 8	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、モジュールおよび特定のファシリティメッセージのシビラティ（重大度）を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging module 3
switch(config)# logging level aaa 2
```

ロギングタイムスタンプの設定

Cisco Nexus シリーズ スイッチによって記録されるメッセージのタイムスタンプの単位を設定できます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging timestamp** {microseconds | milliseconds | seconds}
3. (Optional) switch(config)# **no logging timestamp** {microseconds | milliseconds | seconds}
4. (Optional) switch# **show logging timestamp**
5. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging timestamp {microseconds milliseconds seconds}	ロギングタイムスタンプ単位を設定します。デフォルトでは、単位は秒です。
ステップ 3	(Optional) switch(config)# no logging timestamp {microseconds milliseconds seconds}	ロギングタイムスタンプ単位をデフォルトの秒にリセットします。
ステップ 4	(Optional) switch# show logging timestamp	設定されたロギングタイムスタンプ単位を表示します。
ステップ 5	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

Example

次に、メッセージのタイムスタンプ単位を設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging timestamp milliseconds
switch(config)# exit
switch# show logging timestamp
Logging timestamp: Milliseconds
```

syslog サーバの設定

システムメッセージを記録する、リモートシステムを参照する syslog サーバーを最大で 8 台設定できます。

SUMMARY STEPS

1. **configure terminal**
2. **logging server** host [severity-level [use-vrf vrf-name [facility facility]]]
3. (Optional) **no logging server** host
4. (Optional) **show logging server**
5. (Optional) **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	configure terminal Example: <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	logging server host [severity-level [use-vrf vrf-name [facility facility]]] Example: <pre>switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf default facility local3</pre>	ホストが syslog メッセージを受信するように設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>host</i> 引数は、syslog サーバー ホストのホスト名または IPv4 または IPv6 アドレスを示します。 • <i>severity-level</i> 引数は、指定したレベルに syslog サーバーへのメッセージのロギングを制限します。シビラティ（重大度）は 0～7 の範囲です。Table 1: システム メッセージの重大度, on page 1 を参照してください。 • use vrf vrf-name キーワードと引数は、Virtual Routing and Forwarding (VRF) 名の <i>default</i> または <i>management</i> 値を示します。特定の VRF が指定されない場合は、<i>management</i> がデフォルトです。ただし、<i>management</i> が設定されているときは、それがデフォルトであるため、show-running コマンドの出力には表示されません。特定の VRF が設定されている場合、show-running コマンドの出力には、各サーバーの VRF が表示されます。 <p>Note 現在の Cisco Fabric Services (CFS) 配信では VRF をサポートしていません。CFS 配信がイネーブルの場合、デフォルト VRF で設定されているロギングサーバーは管理 VRF として配布されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>facility</i> 引数は syslog ファシリティタイプを指定します。デフォルトの発信ファシリティは <i>local3</i> です。 <p>ファシリティは、使用している Cisco Nexus シリーズ ソフトウェアのコマンド リファレンスに記載されています。</p>

	Command or Action	Purpose
		Note デバッグはCLIファシリティですが、デバッグのsyslogはサーバーに送信されません。
ステップ 3	(Optional) no logging server host Example: switch(config)# no logging server 172.28.254.254 5	指定されたホストのロギングサーバーを削除します。
ステップ 4	(Optional) show logging server Example: switch# show logging server	Syslog サーバー設定を表示します。
ステップ 5	(Optional) copy running-config startup-config Example: switch(config)# copy running-config startup-config	リブートおよびリスタート時に実行コンフィギュレーションをスタートアップコンフィギュレーションにコピーして、変更を継続的に保存します。

Example

次に、syslog サーバーを設定する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5
use-vrf default facility local3
```

```
switch# configure terminal
switch(config)# logging server 172.28.254.254 5 use-vrf management facility local3
```

UNIX または Linux システムでの syslog の設定

/etc/syslog.conf ファイルに次の行を追加して、UNIX または Linux システム上に syslog サーバーを設定できます。

```
facility.level <five tab characters> action
```

次の表に、設定可能な syslog フィールドを示します。

Table 3: `syslog.conf` の `syslog` フィールド

フィールド	説明
Facility	メッセージの作成者。auth、authpriv、cron、daemon、kern、lpr、mail、mark、news、syslog、user、local0～local7です。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。これらのファシリティ指定により、発信元に基づいてメッセージの宛先を制御できます。 Note ローカルファシリティを使用する前に設定をチェックします。
Level	メッセージを記録する最小重大度。debug、info、notice、warning、err、crit、alert、emergです。アスタリスク (*) を使用するとすべてを指定します。noneを使用するとファシリティをディセーブルにできます。
Action	メッセージの宛先。ファイル名、前にアットマーク (@) が付いたホスト名、カンマで区切られたユーザーリストです。アスタリスク (*) を使用するとすべてのログインユーザーを指定します。

SUMMARY STEPS

1. `/etc/syslog.conf` ファイルに次の行を追加して、ファイル `/var/log/myfile.log` に local7 ファシリティのデバッグメッセージを記録します。
2. シェルプロンプトで次のコマンドを入力して、ログファイルを作成します。
3. 次のコマンドを入力して、システムメッセージロギングデーモンが `myfile.log` をチェックして、新しい変更を取得するようにします。

DETAILED STEPS

ステップ 1 `/etc/syslog.conf` ファイルに次の行を追加して、ファイル `/var/log/myfile.log` に local7 ファシリティのデバッグメッセージを記録します。

```
debug.local7                /var/log/myfile.log
```

ステップ 2 シェルプロンプトで次のコマンドを入力して、ログファイルを作成します。

```
$ touch /var/log/myfile.log
$ chmod 666 /var/log/myfile.log
```

ステップ 3 次のコマンドを入力して、システムメッセージロギングデーモンが `myfile.log` をチェックして、新しい変更を取得するようにします。

```
$ kill -HUP ~cat /etc/syslog.pid~
```

syslog サーバー設定の配布の設定

Cisco Fabric Services (CFS) インフラストラクチャを使用して、ネットワーク内の他のスイッチへ Syslog サーバー設定を配布できます。

Syslog サーバー設定の配布をイネーブルにすると、配布設定をコミットする前に Syslog サーバー設定を変更し、保留中の変更を表示できます。配布がイネーブルである限り、スイッチは Syslog サーバー設定に対する保留中の変更を維持します。



Note スイッチを再起動すると、揮発性メモリに保存されている syslog サーバー設定の変更は失われることがあります。

Before you begin

1 つまたは複数の syslog サーバーを設定しておく必要があります。

SUMMARY STEPS

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **logging distribute**
3. switch(config)# **logging commit**
4. switch(config)# **logging abort**
5. (Optional) switch(config)# **no logging distribute**
6. (Optional) switch# **show logging pending**
7. (Optional) switch# **show logging pending-diff**
8. (Optional) switch# **copy running-config startup-config**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# logging distribute	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの syslog サーバー設定の配布をイネーブルにします。デフォルトでは、配布はディセーブルです。
ステップ 3	switch(config)# logging commit	ファブリック内のスイッチへ配布するための Syslog サーバー設定に対する保留中の変更をコミットします。
ステップ 4	switch(config)# logging abort	Syslog サーバー設定に対する保留中の変更をキャンセルします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	(Optional) switch(config)# no logging distribute	CFS インフラストラクチャを使用して、ネットワーク スイッチへの syslog サーバー設定の配布をディセーブルにします。設定変更が保留中の場合は、配布をディセーブルにできません。 logging commit および logging abort コマンドを参照してください。デフォルトでは、配布はディセーブルです。
ステップ 6	(Optional) switch# show logging pending	Syslog サーバー設定に対する保留中の変更を表示します。
ステップ 7	(Optional) switch# show logging pending-diff	syslog サーバー設定の保留中の変更に対して、現在の syslog サーバー設定との違いを表示します。
ステップ 8	(Optional) switch# copy running-config startup-config	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

ログ ファイルの表示およびクリア

ログ ファイルおよび NVRAM のメッセージを表示したり消去したりできます。

SUMMARY STEPS

1. switch# **show logging last number-lines**
2. switch# **show logging logfile** [**start-time** yyyy mmm dd hh:mm:ss] [**end-time** yyyy mmm dd hh:mm:ss]
3. switch# **show logging nvram** [**last number-lines**]
4. switch# **clear logging logfile**
5. switch# **clear logging nvram**

DETAILED STEPS

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	switch# show logging last number-lines	ロギングファイルの最終行番号を表示します。最終行番号には 1 ~ 9999 を指定できます。
ステップ 2	switch# show logging logfile [start-time yyyy mmm dd hh:mm:ss] [end-time yyyy mmm dd hh:mm:ss]	入力されたスパン内にタイム スタンプがあるログ ファイルのメッセージを表示します。終了時間を入力しないと、現在の時間が使用されます。月の時間フィールドには 3 文字を、年と日の時間フィールドには数値を入力します。
ステップ 3	switch# show logging nvram [last number-lines]	NVRAM のメッセージを表示します。表示される行数を制限するには、表示する最終行番号を入力できます。最終行番号には 1 ~ 100 を指定できます。
ステップ 4	switch# clear logging logfile	ログ ファイルの内容をクリアします。

	Command or Action	Purpose
ステップ 5	switch# clear logging nvram	NVRAM の記録されたメッセージをクリアします。

Example

次に、ログ ファイルのメッセージを表示する例を示します。

```
switch# show logging last 40
switch# show logging logfile start-time 2007 nov 1 15:10:0
switch# show logging nvram last 10
```

次に、ログ ファイルのメッセージをクリアする例を示します。

```
switch# clear logging logfile
switch# clear logging nvram
```

DOM ロギングの構成

DOM ロギングの有効化

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **system ethernet dom polling**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# system ethernet dom polling	トランシーバのデジタル オプティカル モニタリングの定期的なポーリングを有効にします。

例

次に、DOM ロギングを有効にする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# system ethernet dom polling
```


DOM ロギングの無効化

手順の概要

1. switch# **configure terminal**
2. switch(config)# **no system ethernet dom polling**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	switch(config)# no system ethernet dom polling	トランシーバのデジタル オプティカル モニタリングの定期的なポーリングを無効にします。

例

次の例は、DOM ロギングを無効にする方法を示しています。

```
switch# configure terminal
switch(config)# no system ethernet dom polling
```

DOM ロギング構成の確認

コマンド	目的
show system ethernet dom polling status	トランシーバのデジタルオプティカルモニタリングの定期的なポーリング ステータスを表示します。

システム メッセージ ロギングの設定確認

システム メッセージのロギング設定情報を確認するには、次のコマンドを使用します。

コマンド	目的
show logging console	コンソール ロギング設定を表示します。
show logging info	ロギング設定を表示します。
show logging ip access-list cache	IP アクセス リスト キャッシュを表示します。
show logging ip access-list cache detail	IP アクセス リスト キャッシュに関する詳細情報を表示します。

コマンド	目的
show logging ip access-list status	IPアクセスリストキャッシュのステータスを表示します。
show logging last <i>number-lines</i>	ログ ファイルの末尾から指定行数を表示します。
show logging level [<i>facility</i>]	ファシリティ ロギングシビラティ（重大度）設定を表示します。
show logging logfile [<i>start-time</i> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i> [<i>end-time</i> <i>yyyy mmm dd hh:mm:ss</i>]	ログ ファイルのメッセージを表示します。
show logging module	モジュール ロギング設定を表示します。
show logging monitor	モニタ ロギング設定を表示します。
show logging nvram [<i>last number-lines</i>]	NVRAM ログのメッセージを表示します。
show logging pending	Syslog サーバーの保留中の配布設定を表示します。
show logging pending-diff	Syslog サーバーの保留中の配布設定の違いを表示します。
show logging server	Syslog サーバー設定を表示します。
show logging session	ロギングセッションのステータスを表示します。
show logging status	ロギングステータスを表示します。
show logging timestamp	ロギング タイムスタンプ単位設定を表示します。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。